

# The CIRCLE

TOCHIGI TOYOTA

ドライブ情報誌&総合カタログ

ザ・サークル

Vol.160

おいしいサンドイッチが食べたい。



栃木の歴史的建造物を訪ねて  
**岡部記念館「金鈴荘」**(真岡市)

栃木の民話を訪ねて  
**「ふり面たり面」**(矢板市)



## ケンジ小麦館



宇都宮市さつき2-19-13  
028-655-1122  
AM10:00~PM7:00  
月・木曜定休 ②8台

### しっとりふわふわ食感のパンが魅力

宇都宮南部エリアにある人気のパン屋「ケンジ小麦館」。ふわふわで柔らかな食感に仕上げた看板商品「赤ちゃんの食パン」を使ったサンドイッチが大好評です。高根沢町から直送の「青木の卵」を使ったボリュームたっぷりの『黄金の玉子サンド(180円)』や『フルーツサンド(180円)』など、15種類以上の新鮮なサンドイッチが1つずつ買えるのもポイント。



## 道の駅しもつけ



下野市薬師寺3720-1  
0285-38-6631  
朝・物産:AM9:00~PM6:00 (6月~8月はPM7:00まで) レストラン:AM11:00~PM7:00  
軽食コーナー:AM9:00~PM7:00  
第1・第3水曜、1/1~3定休 ②336台 <http://www.kanpi-shimotsuke.co.jp/>

### ほのかな甘みがクセになるビッグな玉子焼きサンド

ボリューム抜群の玉子焼きが目を引く『うみたて玉子焼きサンド(500円)』。一つのサンドイッチに3個の卵が使用されているという贅沢な逸品です。しっかりと食べごたえのある玉子焼きにはほのかな甘みがあり、食パンとの相性が抜群。販売直後に完売してしまうことが多い大人気商品です。ゴールドカラーであることから「金運UP」も期待できる…とか。



## 小時飯屋



二荒山神社 大通り 足利銀行 PARCO 日野町通り 宇都宮市大通り1-2-12  
070-6454-0141 AM11:00~PM6:00  
土・日・月曜日および祝祭日 定休 ②無し  
中央郵便局 上河原通り いちょう通り

### パンも手作りのおいしさ!季節の食材をふんだんに

小時飯屋ではほぼ国産の野菜やハム・果物などの食材を、北海道産の小麦で作ったやわらかい自家製パンではさみ、おいしさと安心の味を創り出しています。写真のサンドは左から卵サラダ(170円)、ベーコントマトアボカド(250円)、いちごのフルーツ(250円)、ハムキュウリクリームチーズ(250円)、日替わりサラダは150円。イートインもできます。



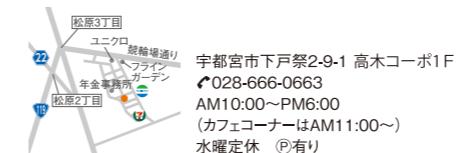
# おいしいサンドイッチが食べたい。

ピクニックシーズンがやってきました。ピクニックの楽しみは『おべんとう』。定番の『おにぎり』に『唐揚げ』…も捨てがたい魅力がありますが、たまには少し雰囲気を変えて(手を抜いて)、サンドイッチをテイクアウトしてみるのも楽しいのでは?もちろん、お店の雰囲気を味わいながら、コーヒーや紅茶と楽しむのもおすすめです。

今回は『おいしくて』『おしゃれ』なサンド系パンの人気店をご紹介していきます。オーソドックスなサンドイッチはもちろん、懐かしいコッペパンを使ったものや、ホットドッグも集めました。ぜひ、お気に入りのサンドイッチを見つけてください。



## サンドwich cafe ドリーム 下戸祭店



宇都宮市下戸祭2-9-1 高木コーポ1F  
028-666-0663 AM10:00~PM6:00  
(カフェコーナーはAM11:00~)  
水曜定休 ②有り



### ボリュームたっぷり!インスタ映えする「サンドwich」

栃木県内に4店舗を展開している話題のお店です。テイクアウトの商品は常時20種類以上。春のお出掛けにぴったりな『ピクニックBOX(写真・1,080円)』は、照り焼きチキンやハムチーズなど4種類の「サンドwich」と、自家製のから揚げ、ポテトが入ったボリュームたっぷりのBOXです。春らしいオシャレなパッケージも気分を盛り上げてくれます。



## コッペパン専門店 COPPERI

小山市神山2-12-2 1F  
TEL: 0285-38-8100  
AM9:00~PM4:00  
※売り切れ次第終了  
定休日なし (P)5台

### 自由に選んで組み合わせる楽しさが魅力

どこか懐かしくも新しいコッペパン専門店です。甘いコッペパンは18種類、おかずコッペパンは16種類、ほかに限定メニューも並びます。注文は、まずパンは3種類(プレーン、竹炭入り、自家製乳酸菌入り)から選び、続いて具を選ぶスタイル。オーダーを受けてから、スタッフが1つずつていねいにサンドしてくれます。おやつにも食事にも最適な一品です。



▲ホットドッグ 400円(モーニングタイムはコーヒーが付いて500円)

## 384 COFFEE SHOP

宇都宮市中央本町4-9  
TEL: 090-2431-5972  
AM7:30~PM9:00  
(日曜・祝日はPM6:00まで)  
モーニング AM7:30~AM11:00 不定期 (P)無し  
<http://ameblo.jp/384coffee>

### 懐かしき喫茶店ホットドッグ

中央郵便局の北側、みはし通りに面した喫茶店「384」。朝7時半の開店を待ちかねた常連客が次々と訪れます。モーニングの定番のひとつが「ホットドッグ」。市内の老舗ベーカリーに特注するパンに、軽く炒めた千切りキャベツとフライドソーセージ、ケチャップとマスタードというシンプルながら究極のスタイル。しっとり柔らかいパンと、パキッと旨みが弾けるソーセージ。キャベツの甘みも優しく、どこか懐かしい青春の味です。



### 懐かしのコッペパンをさまざまな具材で楽しむ

学生やご近所の方に気兼ねなく沢山食べて欲しいと、リーズナブルな価格で提供している街のコッペパン専門店「のこコッペ」。フルーツがぎっしり詰まった『フルーツコッペ(250円)』や『卵コッペ(180円)』『ツナコッペ(200円)』など、注文を受けてからていねいに作ります。コッペパンがなくなり次第終了なので、週末は早めの来店がおすすめ。



のこコッペ



▲ログガツサンド 800円、コーヒー 480円

## 喫茶ロクガツ

真岡市役所前  
TEL: 0285-81-5888  
正午~PM10:00(L.O./PM9:30)  
木曜、第1・第3・第5水曜定休  
(P)無し(市営駐車場を利用)



### ロクガツ流キューバサンド

真岡市役所にほど近い小径に佇む「喫茶ロクガツ」。ハンバーグなどの人気メニューのほか、ファンが多いのが「ロクガツサンド」。キューバの労働者たちに親しまれてきたキューバサンドをアレンジしたもので、全粒粉のパンにベーコン(いずれも自家製)とロースハム、チeddarチーズとピクルスをサンドして外側を焼き上げます。パンの香ばしさとベーコンの旨み、濃厚なチーズにピクルスの酸味がアクセント。舌もお腹も満たされます。



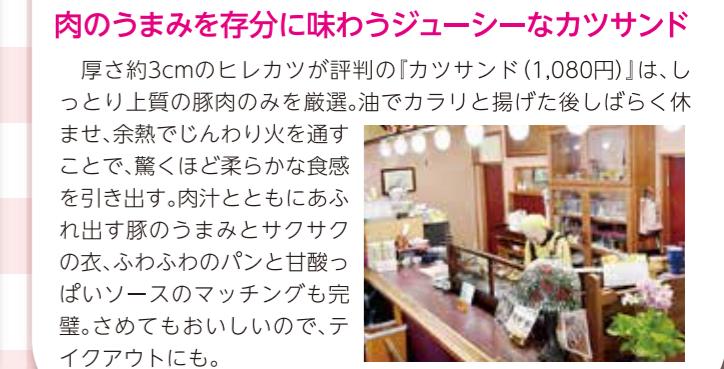
## フルーツダイニング 8010 パセオ店

宇都宮市川向町1-23  
TEL: 028-627-8596  
AM10:00~PM8:00  
定休日なし (P)有り



## カフェレストラン 絵里珈

益子町益子3345-3  
TEL: 0285-72-6033  
AM10:00~PM8:00  
(L.O./PM7:30)  
月曜定休(祝日の場合、営業)  
(P)50台  
<http://erika.dreamblog.jp>



肉のうまいみを存分に味わうジューシーなカツサンド

厚さ約3cmのヒレカツが評判の『カツサンド(1,080円)』は、しっとり上質の豚肉のみを厳選。油でカラリと揚げた後しばらく休ませ、余熱でじんわり火を通すことで、驚くほど柔らかな食感を引き出す。肉汁とともにあふれ出す豚のうまみとサクサクの衣、ふわふわのパンと甘酸っぱいソースのマッチングも完璧。さめておいしいので、テイクアウトにも。



### 上質な生クリームと甘いフルーツのハーモニー

旬のフルーツを使ったサンドが人気で、店内は多くの人にぎわいます。この時期のおすすめは、イチゴをぜいたくに使った『とちおとめ苺サンド(790円)』(5月末まで)。さらに、定番の生クリームたっぷりのフルーツサンドをベースに、イチゴとキウイをプラスした『パセオ限定スペシャルサンド(770円)』もあり、こちらもぜひ試したい一品です。

## 朝日屋本店『しもつけショコラ』



高根沢町大字宝積寺2368  
028-675-0030  
AM8:00~PM7:30  
無休(元日を除く)  
⑨有り

求肥の食感と生チョコの  
なめらかさがやみつきにな  
る老舗和菓子屋の逸品

明治30年創業の老舗の和菓子屋「朝日屋本店」。店舗と一緒に工場で作られる商品は、どれも素朴で心温まる味わい。極上質の白いんげんを使用した「ぎんとんまんじゅう」など長く愛されている商品が並びます。その中でもギフトにおすすめなのが「しもつけショコラ」。厳選した生チョコをモチモチとした求肥で包みました。仕上げにはポリフェノール豊富なココアをまぶし、控えめでバランスのよい甘さに仕上げています。粒の大きさは約3cm。ひとくちで食べられ、コロンと丸いフォルムは年齢問わず好まれます。5個入り(450円)、10個入り(900円)、15個入り(1250円)と、用途に合わせて選べるのもうれしいポイント。

## ジェラテリア桜蔵『ジェラート』



万町交番前 11 2  
栃木市役所 交番  
カワチ薬品 みずほ銀行  
足利銀行 佐野  
JR 13 31  
JR 31  
栃木市万町3-24  
0282-22-2000  
AM10:30~PM6:00  
火曜定休

果実の味を引き出すため程よい甘さにおさえた専門店のジェラート

栃木市中心部・蔵の街の大通り沿いにあるジェラート専門店です。蔵造りの建物は重厚でありながらオシャレな雰囲気。その佇まいは、蔵の街として知られる栃木市の景観ともマッチしています。ジェラートを使う素材は自家農園で育てたイチゴやブルーベリーをはじめ、季節ごとの旬のものを使っています。ジェラートは果実以外にも、黒大豆や宇治抹茶といったものも並びます。素材が持つ本来の味わいを残すために甘さは控えめ。後味もすっきりで、何度も食べても飽きないと評判です。ギフトには最適な6個パックを用意。店頭で好きなフレーバーをチョイスできます。これらの季節、旬の味覚を使ったジェラートで一息入れてみませんか。

喜ばれる

## 手みやげ研究室

プライベートでもビジネスでも、フォーマルでもカジュアルでも、様々な場面で、場を明るく和ませるのが『気の利いた手みやげ』。絶対はずさない『手みやげ』を研究・発表します。



フィールドアスレチックは全30ポイントの本格コース。利用は小学生以上から。



290種、約2,100株ものバラが咲き誇るバラ園。イベント開催時にはバラ苗即売会など人気の催事も。



1万人が泳げるほど広い「1万人プール」。水深が浅いプールなどを備え、多くの人が楽しめます。

井頭公園  
真岡市下籠谷99  
0285-83-3121  
グリーンサロン、有料施設は火曜定休  
※営業時間は施設により異なります。  
⑨有り  
<https://www.park-tochigi.com/igashira/>

### 目移りしちゃう！ 井頭公園の豊富な施設

日本の都市公園100選に選定されている井頭公園。広い敷地の中では、散歩を楽しんだり、自然を満喫したり、思いっきり遊んだりと誰もが思い通り過ごしています。中でも子どもたちに人気のは、体を思いっきり動かすフィールドアスレチック。綱を上ったり、ぶら下がったりと果敢に挑戦しながら楽しく体を動かせるので、エネルギー溢れる子どもも大満足間違いなしでしょう。また、各種講座や展示会、イベントなどを定期的に開催し、多くの人が賑わっています。楽しめるアクティビティが揃い、親子のお出かけにピッタリ！

### 花・蝶・鳥と触れ合える、花ちょう遊館

館内は熱帯・亜熱帯の色鮮やかな鳥が飛び交う「トロピカルバードゾーン」や「チョウゾーン」、100種類に及ぶ高山植物が見られる「高山植物館」の3つのゾーンがあります。普段は田にすることができない、珍しい動植物を見学できます。

### 野鳥観察、1万人プールも人気！

公園内には野鳥を観察したり、野鳥に関する情報を取りたいする「鳥見亭」、夏になると大きなウオータースライダーが人気の「1万人プール」もあります。一日中遊べるから親子におすすめのスポットです。

## 井頭公園



貸ポートはペダル式とオール式から選択可能。冬は多くの水鳥が越冬のために飛来するため休業します。



熱帯生態館で見られるオニオオハシ。トロちゃんとピカちゃんの2羽が住んでいます。

## 真岡市

岡部記念館  
「金鈴莊」  
真岡市



広い玄関から望む1階の部屋「さつき」。



岡部家について、また有島武郎の小説「或る女」の主人公のモデルといわれている佐々城信子についてパネルで説明されています。



1階あじさいの間。床の間には紫檀・黒檀・鉄刀木などが使われ、襖は、金箔が5層に施された襖紙に墨絵が描かれています。



豪壮な建物全景。木造2階建・寄棟・瓦葺き・土蔵造り。延床面積は415.52m<sup>2</sup>。



岡部記念館「金鈴荘」

真岡市荒町2096-1  
☎0285-83-2560(真岡木綿会館)  
AM9:30～PM4:30(入館はPM4:00まで)  
火曜休館 ※祝日の場合は翌日  
入館無料  
<https://www.city.moka.lg.jp/>

取材協力：  
真岡市教育委員会文化課文化財係

真岡市は古くより木綿で栄えた町。「真岡木綿」は、丈夫で質が良く、綿のような肌ざわりが特徴といわれ、絶大な人気を誇りました。江戸時代、文化・文政・天保の頃には年間38万反を生産し、大いに隆盛を極めました。その当時、江戸の木綿問屋はこぞって真岡木綿を買い求め、木綿仕入れ高の約8割が真岡木綿であつ

その後、輸入綿糸の流入などを背景に、時代とともに真岡木綿は衰退の一途をたどります。そして戦後には、その生産はほとんど途絶えてしまいました。

昭和61年(1986年)、真岡木綿復活の機運が盛り上がり、真岡商工会議所を中心となつて「真岡木綿保存振興会」が設立されました。その後、真岡木綿は栃木県の伝統工芸品に指定され、機織り技術者養成講座を開設し、伝統工芸士を輩出するなど、伝統と地域の文化

卷之三十一

市内荒町にある「真岡木綿会館」には、県伝統工芸士3名を含む約20名の機織り技術者が在籍しています。綿の栽培から染色・機織りまで一貫した手作業により、質の高い製品ができるばかりです。なお、機織りの様子を見学できるほか、体験も可能。県内外から多くの観光客が訪れ、真岡市の歴史と受け継がれている文化にふれています。

真岡木綿会館の裏手に佇む「岡部記念館・金鈴荘」は、明治中期に建てられたものです。地元の豪商、岡部呉服店3代目の岡部久四郎氏が、多年にわたり全国から厳選した建築材料を集め、大工、指物師など、出入りの職人を3年間東京で修業させ、完成までに10年余の歳月を費やしたといわれています。木造2階建てで、徹底した防火土蔵造りとなっています。内部造作はまさに贅を尽くしたもので、それぞれの部屋に設えられた床の間は、すべて紫檀、黒檀、鉄刀木(たがやさん)などの唐木が用いら

建物は、建築してから昭和27年まで、岡部家の別荘として関係者の接待や呉服の展示会場として使われました。また、有島武郎の小説「或る女」の主人公、早月葉子のモデルといわれている佐々城信子が、後年暮らしていました。その後、昭和63年6月まで割烹料理店「金鈴荘」として利用されていましたが、同年8月に真岡市が借り受け、真岡市近世百年の歴史・文化遺産として後世に引き継ぐため、岡部記念館「金鈴荘」として保存することになりました。

平成13年1月には、岡部呉服店から真岡市に寄付されました。建物は平成12年に栃木県指定有形文化財に、平成13年には周囲の石垣が真岡市登録文化財に指定登録されています。

厳選した材料を用いた豪壮な造りや、贅を尽くした内部の造作など、建築として秀逸なことはもとより、庭園や内部にある書画骨董も含め、訪れた客をもてなす主人の心意気を感じさせてくれる名建築です。

建物は、建築してから昭和27年まで、岡部家の別荘として関係者の接待や呉服の展示会場として使われました。また、有島武郎の小説「或る女」の主人公、早月葉子のモデルといわれている佐々城信子が、後年暮らしていました。その後、昭和63年6月まで割烹料理店「金鈴荘」として利用されていましたが、同年8月に真岡市が借り受け、真岡市近世百年の歴史・文化遺産として後世に引き継ぐため、岡部記念館「金鈴荘」として保存することになりました。

平成13年1月には、岡部呉服店から真岡市に寄付されました。建物は平成12年に栃木県指定有形文化財に、平成13年には周囲の石垣が真岡市登録文化財に指定・登録されています。

厳選した材料を用いた豪壮な造りや、贅を尽くした内部の造作など、建築として秀逸なことはもとより、庭園や内部にある書画骨董も含め、訪れた客をもてなす主人の心意気をも感じさせてくれる名建築です。



廊下の梁に使われている杉材は長さ17.5m。端から端までほぼ同じ太さです。ガラスも建築当時の物。



建物の前に広がる回遊式日本庭園の池。



方に張り巡らされた石垣は、地元の礫山石（現在は生産されていない）を使用。



## 栃木の民話を訪ねて

### 第三十回

# ふり面 てり面

矢板市

ふり面は、木幡神社(矢板市)の宝物で、征夷大将軍の坂上田村麻呂が、自分で彫り上げ、蝦夷のかしらの血を塗つて作ったものだといわれています。

坂上田村麻呂は、いまから千二百年ほど昔、桓武天皇の仰せによつて蝦夷征伐に向かいました。国を出るとき、山城国(京都府)宇治の木幡の許波多神社に、「どうぞ朝敵蝦夷を征伐できますように」と祈つて来ましたが、峰村(木幡の昔の名)に泊まつたとき、いよいよ那須山を越えれば蝦夷地であることから、小高い丘にのぼつて再びはるかに宇治の許波多の神に祈りました。こうして、全軍に勢いをつけて那須野が原や白河を越え、ついに蝦夷を討つて、奥州を平らげることができました。

めでたく凱旋のとき、田村麻呂将軍は、再び峰村に泊まりこの丘の上にのぼつて、許波多の神にお札を申し上げました。そしてこの地に、許波多の神を移しまつることにして、峰村を改めて、宇治と同じように木幡村としたと伝えられています。

この時、「神社の宝物に」といつて、残していったのが、このふり面です。ふり面は人の顔の一倍もある大きさで、眼玉はぎよりとし、鼻の突き出した大天狗のお面です。裏は平らで、かむつて踊るというようなものではありません。

田村麻呂将軍は、やがて都へ帰り、天皇に蝦夷を平らげたことを申しあげました。天皇は大変およろこびになり、田村麻呂にご褒美の品や、高い位をお授けになりました。田村麻呂は、人々からも、「天下一強い將軍」といつて敬われるようになります。

田村麻呂将軍がなくなると、蝦夷はまたまた言つことを聞かなくなりました。そこで、源頼義、義家親子が、天皇の命をうけて、前後十二年間もかかつて奥州を平げました。このときも頼義、義家親子は、この木幡神社に、戦に勝つように祈つたといいます。

後に、塩谷氏がこの地方一帯の領主となつたとき、戦の神としてあがめられたこの木幡神社を氏神とし、手厚くおまつりしました。こういう古いわざのある神社なので、四百年も続いた塩谷氏が滅びた後も、二百石もの社領をいたたくことができたのでしよう。

もともと木幡村は、この神社のまつられている丘を中心にしているだけに、まわりの川崎村、富田村、安沢村などに比べると土地が高いため、内川が西から南へ流れても直接水を引くことができません。どうしても富田村の上流から用水を掘つて、内川の水を引いてこなければなりませんので、特に雨の少ない年は、田んぼの水がカラカラに干上がりてしまい、そちこちで水げんかが起つるという始末です。

毎年の水げんかが、木幡村の名物のようになつてしまつたので、みんなで相談したところ「木幡神社に雨ごいをしよう。」ということになりました。それからは、雨が降らないため、田んぼの稻がカラカラになつて枯れてしまうというときには、内川の川原にお仮屋を作り、神社の宝物となつて、田村麻呂将軍手作りの天狗の面を出してもらつて、正面に飾り、みんなで雨ごいをすることになりました。ところが、不思議なことに、このお面を神社から出すと、必ず大夕立が起つて、田んぼいっぽいに水がみなぎり、水不足もすぐに解消してしまいます。このことから、このお面を「雨ふり面」、「ふり面さま」と呼ぶようになりました。時には、ふり面さまの「利益が効きすぎて、雨ごいの反対にして神さまにお願いすれば、聞き届けてくださるかもしない」というので、後には白いお面が作られました。ふり面を赤鶴の面というのに対し、これを白鶴の面と名付け、てり面として神社におまつりしたこところがあつてひどくなつていきましたので、宇都宮の塗り屋に塗り替えを頼みました。

ところが、不思議なことに塗り屋が、「今日は天気がよいから漆の伸びがよいだらうから、仕事を始めよう」と、このお面を取り出すと、たちまち雨がふり出すのです。そんなわけで、お面一つ塗り替えるのに何日も何日もかかつてしましました。塗り屋は、お面を渡すとき、「このお面は、不思議なお面です。箱から出すとザアザア雨がふり出す」という全く不思議なお面です」

「今日は、木幡神社のふり面さまが、おかえりになる日だつてよ」と、話してくれました。お面を拾つた主人は、ますます氣味悪く思ふと、お面を渡すとき、「そうかね。そもそも、こんな上天気じや、ふり面さまのご利益などと話し合つてゐるうちに、十一時頃になると、どうしたわけかにわかに黒い雲がいっぽうに広がり、ピカピカ「ロ「ロとたちまち大夕立になつてしまつました。

それがまた、大変長い夕立で、たっぷり三時間ばかり雨と雷が続きました。しかも、午前中から夕立騒ぎです。人々は今更ながらふり面さまの靈験あらたかなことを思い知らされました。こうして、ふり面は、無事に木幡神社に戻り、現在は、裏の御神庫の中に納められ、その後は滅多に出さないことになつてしましました。

それは、あの大夕立のあつた翌日のこと、鷺宿の内川沿いの家の主人が、内川のせきに、天狗のお面が引っかかるつているのを見つけ、家に帰り、神棚に飾つておきました。

ました。雨ふり続きの時には、このお面を出して、お天とうさまがキラキラと顔を出すまで祈り続けたともいいます。

こういうわけですから、木幡神社のふり面、てり面の話は、木幡村だけの話でなくなり近郷近在の多くの人々が関心を持つようになりました。

「こんなに日照り続きじや、畑のものは、みんな枯れつちまつて、田んぼもカラカラでほこりが出る始末じやあ。ふり面さまを出してもらうべい」とか、

「ううう毎日の長雨じやあ、やりきんねえ。今に洪水でも起きたら大変じや」

などといつて、木幡神社は戦の神さまから、農業の神さまとして敬われるようになります。

ところが、この伝説には、珍しい裏話があります。

それは、明治より少し前の頃、例によつて雨ごいのお祈りをしていました。すると、靈験あらたかなふり面さまの功能できめん、高原山の方に黒い雲がムクムクと現れ、たちまちしのをつくような大雨がふり出しました。そしてゴロゴロ、ピシャーン、と、雷さまでご一緒の大夕立となりました。

村人たちも神主さまも、大慌てに慌てて、お仮屋やお面のことも忘れて、家へ走つて帰りました。するとたちまち内川の水があふれて、川原に建てたお仮屋は、そこに飾つてあつたふり面もろとも、黒い濁流に飲まれて、行方知れずになつてしましました。

木幡の人たちは、先祖代々伝わってきた大切なお面が、流されてしまつたので、慌てて内川の下流帯を探し回りましたが、とうとう見つけることはできませんでした。あれほど有名になつたふり面さまを流してしまつて、神さまのばちが当たつたのでしょうか。それ以来、どんな日照りのときでも雨ごいができるなくなつてしまい、水げんばは果てしなく続きました。

こうしてたちまち七、八十年が過ぎてしましましたが、昭和のはじめになって、これが下流の鷺宿の人から返されることになったのです。

それは、あの大夕立のあつた翌日のこと、鷺宿の内川沿いの家の主人が、内川のせきに、天狗のお面が引っかかるつているのを見つけ、

